補中益気湯エキス

確認試験(11)の項を次のように改める.

確認試験

(11)　乾燥エキス2.0 g(軟エキスは6.0 g)をとり，水30 mLを加えて振り混ぜた後，1－ブタノール50 mLを加えて振り混ぜる．1－ブタノール層を分取し，減圧で溶媒を留去した後，残留物にメタノール3 mLを加えて試料溶液とする．薄層クロマトグラフィー用(*E*)－イソフェルラ酸・(*E*)－フェルラ酸混合試液を標準溶液とする．これらの液につき，薄層クロマトグラフィー〈*2.03*〉により試験を行う．試料溶液5 μL及び標準溶液2 μLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする．次に酢酸エチル／アセトン／水混液(20：12：3)を展開溶媒として約10 cm展開した後，薄層板を風乾する．これに硫酸を均等に噴霧し，105 ℃で5分間加熱した後，紫外線(主波長365 nm)を照射するとき，試料溶液から得た数個のスポットのうち1 個のスポットは，標準溶液から得た黄色の蛍光を発するスポットと色調及びR_f値が等しい(ショウマ).

9．41 試薬・試液の項に次を追加する.

(*E*)－イソフェルラ酸　$C_{10}H_{10}O_4$　白色～淡黄色の結晶又は結晶性の粉末である．メタノール又はエタノール(99.5)にやや溶けにくく，水にほとんど溶けない．融点：約230 ℃(分解).

確認試験　本品のメタノール溶液(1→200000)につき，紫外可視吸光度測定法〈*2.24*〉により吸収スペクトルを測定するとき，波長215～219 nm，238～242 nm，290～294 nm及び319～323 nmに吸収の極大を示す.

純度試験　類縁物質　本品1 mgをメタノール1 mLに溶かした液2 μLにつき，「補中益気湯エキス」の確認試験(11)を準用し，試験を行うとき，R_f値約0.6の主スポット以外のスポットを認めない.

(*E*)－イソフェルラ酸・(*E*)－フェルラ酸混合試液，薄層クロマトグラフィー用　(*E*)－イソフェルラ酸1 mg及び(*E*)－フェルラ酸1 mgをメタノール2 mLに溶かす.